令和３年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　災害時の私たちの役割　」

和歌山県　橋本市立あやの台小学校　５年　安野（やすの）　由祥（ゆな）

私たちの身近で起こった平成 23 年の紀伊半島大水害のパネルてんに行き、実際に災害の様子を見るために五條市大塔の災害があった場所へ行きました。

この水害は、平成 23 年９月の台風 12 号による水害です。紀伊半島、四国など広いはん囲に、とても大きな被害がありました。

私が見た五條市大塔町では、山のほとんどの表面の土がなくなっていました。この地域の人は、がけくずれが起こり、川をせきとめたしゅんかんに、まるでたばこのけむりのようなきりがふわっと上がった、と言っておられました。この山の土は下を流れる川をふさぎ、ダムのようになりました。私は、この山を目の前に見た時すごいはく力があって、とてもこわくなりました。人間の力、機械の力でももちろん、これだけの山の土を運ぶのは時間もかかるし、とても無理だと思うけど一しゅんにして川をせきとめた自然の力はすごいなあと思いました。

災害から 10 年がたって、災害があった場所はわかりましたが、きれいに工事がされていました。最近では、工事をするブルドーザーをそうさする人の安全を考えて無人化されて遠くからそう作するそうです。工事現場でも人の命を第一に考えているのだと思いました。

秋の台風もとてもこわいですが、最近季節に関係なく、各地で起こっている水害の被害にあわれた人たちは、「ここにずっと住んでいるけど、今までにこんなことはなかった」と言っておられます。地球のいじょう気象のため、災害はいつ、どこで起こっても不思議ではありません。

私が通っている小学校では、毎年地域の人たちと一緒に防災訓練を行っています。初めて訓練に参加したときは、ひなん場所の小学校にたくさんの人が集まってきて、なんか運動会が始まる前のワクワクした気持ちだったことを覚えています。でも、毎回参加するにつれ私たちが出来ること、しなければならないこと、「自助」を考えるようになりました。それは、第一に自分の命を守ることです。自分が生きていなければ、人を助けることは出来ないし、自分がけがをすると周りの人にめいわくをかけることになるからです。次に、地域の一人となって人を思いやり、地域の人たちと一緒にお年よりや、手助けが必要な地域の人を助けたり、ひなん所をつくったりする「共助」だと思います。私たちも地域の一人となって人を思いやり、地域の力になりたいです。地域のみんなで、ゆずりあいや助け合いが出来るまちになればいいなと思います。

ひなん訓練で、実際にだんボールでつくったパーテーションやひなん所用のテントで、知らない地域の人たちとひなん生活が出来るのかな。ねるときはかい適かな。暑くないのかな。寒くないのかな。食事は。トイレは。家でかっているペットは連れて行けるのかな。大塔町の災害場所や各地の災害ニュースを見るとたくさんの不安や、ぎ問が出てきました。体育館の限られた大きさの中で、ひなんしている人たちと助け合うためにも日ごろからあいさつして顔見知りになって、協力ができるような関係が必要だと思いました。

テレビの中のことだと思っていた災害も、いつ起こるかわかりません。いろいろなじょうきょうに応じて、あわてず対応できるように自分自身の行動を考え、災害が起こる理由や非常時の持ち出し品の確にんなど災害について意識を持つことが大切だと思いました。